

あさざいだより

令和 4 年 4 月 春号 No.32

安佐在宅診療クリニック

〒731-0103

広島市安佐南区緑井6丁目 37-5

TEL 082-831-6306

FAX 082-831-6307

http://asa-zaitaku.jp/



新年度になりました。昨年度は私事やコロナ禍による業務量増大により、当院も少し受け入れをセーブしていましたが、やっと通常業務に戻せそうで、また今まで通りよろしくお願い致します。本来ならこれから始まる新しい年度に心新たに頑張ろうと思う時ですが、コロナ禍は収まらず、第三次世界大戦も起きかねない世界情勢となり、東北ではまた地震があり、明るい話題はないですね。新型コロナウイルス感染症第6波はピークを越えつつありますが、世界ではまだ1日100万人以上の新規感染者、日本でも毎日5万人前後の新規感染者がみられ、高止まり状態で、今までにない感染爆発をきたしています。それを抑えるためのワクチン3回目も日本での接種率はやっと40%に達する程度で、中々進みません。抗ウイルス薬や中和抗体薬などの治療薬が次々出てきていますが、収束に向かうまでの抑制力は今のところみられません。年末から拡大したオミクロンが流行を引き起こす最後の変異株ではなさそうで、すでに違うタイプのオミクロン変異株(BA.2)に急速に置き換わり始めており、第7波に備えていかないといけなさそうです。いつまで続くかわからないウイルスとの闘いに、精神的にも体力的にも経済的にも疲弊しているところに、隣国が起こした暴力的で非人道的な戦争が世界の人々の心を暗くし、原油高や食料品値上げなど経済活動にも大きな影響を与え、これからどうなっていくのか憂えずにはられません。

呼吸器豆知識

今回はこの春から新たに在宅で使用できるようになったハイフローセラピーという呼吸療法についてお話し




ます。元々病院では呼吸不全の患者にネーザルハイフローと呼ばれる同様の治療が10年以上前から行われ効果は実証されていましたが、高流量、高加湿の酸素を必要とするため、在宅では無理だろうと言われていました。ネーザルハイフローというのはそのまま訳せば「鼻に高流量」となりますから、鼻カニューレにより高流量の酸素を流す酸素療法ということです。ネーザルハイフローは商品名なので、一般名としてはハイフローセラピーと言われます。これを実現できる在宅用の機器が開発され、診療報酬的にも認められ、今年度から使えるようになったのは朗報です。

鼻カニューレで酸素を投与する場合、酸素をされている方はわかると思いますが、あまり高い流量で酸素を流すと鼻腔内が乾燥して痛みが出るため、6L/分くらいが限界で、その場合投与できる酸素の濃度も20~40%程度にしかありません。しかしハイフローセラピーは30L/分以上の高流量酸素を流すことができ、十分な加温加湿もかけられるので、鼻も痛くなく、十分な酸素濃度も維持できるようになります。普通の酸素療法では、100%酸素を流していても、流量が少ないので実際には周囲の空気と一緒に吸い込むことになるため、酸素濃度は、1L/分では24%、2L/分では28%、5L/分でも40%程度にしかありません。でも30L/分以上で流せば、流した酸素濃度と同じ酸素濃度の酸素を吸うことができます。なぜなら、健康な人の一回換気量は10ml/kg程度で、50kgの人であれば500mlくらいとなり、これを大体1秒で吸っていますから、1分では30L/分の流量となり、これ以上の流量で酸素を流せば大気が混じることなく、流しただけの酸素を吸えることになるのです。体調によって換気量が上下するような呼吸不全の患者は、流量が少ないと日によって一緒に吸い込む大気の量が違うため、酸素濃度がその都度変わり、高濃度の酸素になってしまうとCO₂が溜まるということになりかねませんが、高流量であれば本人の換気量に関係なく入れたい酸素濃度で酸素を入れることができ、CO₂貯留を防ぎます。他にもよいことはあります。高流量のため気道に軽く(2~3cmH₂O程度)圧(PEEP)がかかるので、気道がつぶれやすい人は吐き出しやすくなり、CO₂を排出しやすくなります。また高流量だと鼻腔などに溜まっている死腔と呼ばれる呼吸に関係していない部分の空気を洗い流してくれるため、有効に換気できる量が増え、楽に呼吸ができるうえ体内のCO₂も下がります。そして100%の加湿が得られるため、気道粘膜の傷害を防ぎ、粘膜線毛機能も維持し、気道分泌物の排出促進にもなり、痰が多い呼吸器疾患の増悪や気道閉塞を防ぎます。何よりよいのは皮膚に密着しないので痛みがなく、会話や食事でもでき、楽に継続できることで、期待できる治療です。

初診時の機能強化加算の算定について

機能強化加算は、かかりつけ医機能を有する医療機関に算定できる加算です。当院では、「かかりつけ医」として、以下の取り組みを行っていますので、お知らせいたします。

1. 他の医療機関の受診状況および薬の処方内容を把握した上で服薬管理を行います。
2. 健康診断の結果に関する相談等、健康管理に関するご相談に応じます。必要に応じ、専門の医師・医療機関をご紹介します。
3. 介護・保健・福祉サービスに関するご相談に応じます。
4. 夜間・休日等の緊急時の対応方法について情報提供いたします。

 厚生労働省や都道府県のホームページにある「医療機能情報提供制度」のページで、かかりつけ医機能を有する医療機関等の地域の医療機関が検索できます。

【呼吸器豆知識】でお話しました「ハイフローセラピー」の診療報酬点数は、以下のとおりです。

在宅ハイフローセラピー指導管理料 2,400点

在宅ハイフローセラピー装置加算(ハイフローセラピーに係る機器を使用した場合) 1,600点

春といえば、桜が思い浮かびますが、これは、桜？梅？とどちらか迷うことはありませんか？桜、梅ともに「バラ目・バラ科・サクラ属」で、一重のものは基本的に花びらが5枚で、ポイントは花の付き方と花びらの形だそうですので、よく観察してみようと思います。



・桜の花びらはの先が、割れている
・花柄（花が付いている緑色の軸）が長い
・複数の花が固まって咲いている



・桃の花びらは、先が丸い
・枝にくっつくように花が咲く
・1つの節から1つの花を咲かせる